



身近なハレの場を演出し、非日常を味わえる商業施設へ

商業施設「東急プラザ蒲田」篇



蒲田エリアを彩るランドマークとして 地域に愛され続けて半世紀

1968年、エリア初の百貨店機能を備えた商業施設として東京都大田区にオープンした「蒲田東急ビル（現・東急プラザ蒲田）」。
当時の百貨店といえば、ショッピングからグルメ、イベント、遊園地まで、家族連れで非日常の世界を味わえる特別な空間でした。
そんなハレの場を、都心に出ずとも実現した商業施設は多くの支持を獲得。
2018年には開業から50周年を迎え、親子三代でのお客さまも増えました。
施設のシンボルとなった屋上遊園地の観覧車も、いまでは三代目。
都内唯一の屋上観覧車として、今日も元気に子どもたちを乗せています。
それぞれのライフスタイルに寄り添い、地域に愛される場所を育む——
私たちの商業施設にかける想いは、これからも変わることはありません。



「お城観覧車」の愛称で親しまれた初代観覧車（1968～89年）。
2014年の施設リニューアルに伴い、三代目にパトタッチし、その
ネーミングは約3,000通の公募から「幸せの観覧車」に決定した。



東急不動産

www.tokyu-land.co.jp

